



発行日：令和3年1月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

### ◆第58回山部会WGを開催しました！

12月4日(金)に第58回山部会WGを新型コロナウイルス予防対策を徹底した上で豊田市にて開催しました。今回は、10年誌編集の進捗状況の報告、山村ミーティング・森づくりガイドラインに関する流域ガイドラインの進捗状況の報告などを行いました。また、豊田市における市街地と川辺の木質化について、事例報告がありました。

日時：令和2年12月4日(金) 13:30~17:15

場所：豊田市崇化交流館 3階第1研修室

参加者：18名(内オンライン参加1名) ※事務局を含む



### ◆主な会議内容

#### 1. 流域圏担い手づくり事例集(10年誌編集委員会)



11/7~8に開催されたグリーンインフラ・ネットワーク・ジャパンにて報告された「矢作川流域圏の担い手づくり事例集」のポスターの内容について説明がありました。ポスターは、これまで実施してきた担い手づくり事例集の活動についてまとめられており、流域圏懇談会の紹介、活動事例などが報告されています。

10年誌の編集は、令和元年8月から13回の編集委員会と座談会を実施し、6章で構成された150ページの10年誌が完成に近づいています。10年誌は令和3年2月の全体会議で配布予定です。

#### 2. 森づくりガイドライン



- ・設立から15年を向かえた「とよた森林学校」の活動や今後の目標などについて報告がありました。とよた森林学校では、急務である人工林の間伐を進めながら、森林市民活動の担い手づくり、自然観察サポーターの育成など人材を育てる活動などを行っています。これら活動により、とよた森林学校は、森とまちをつなぐ仕組みの一つとして、重要な役割を果たしてきています。
- ・矢作川流域圏の森づくりの事例が取り上げられている書籍「現代日本の私有林問題」(志賀和人 編著)の内容をもとに、矢作川流域圏の森林管理の課題等について話し合いました。豊田市における森林組合・団地組織の連携の仕組みから、森林の公益的機能からみた私有林の課題や将来像、森林所有者が抱えている問題、森とまちの交流などについて話し合いました。
- ・流域ガイドラインの進捗状況では、財政支援の可能性として地球環境基金への応募について説明がありました。研究者・市民ボランティア・山林現場技能者による「ガイドライン作り」と「森づくりの健康診断」を進めていく計画で、地球環境基金に計画書を提出しました。

#### 3. 豊田市における まちなかと川辺の木質化事例の紹介



豊田市内の木質化・木造化の推進について、「ウッディーラー豊田」の取り組み事例を紹介していただきました。ウッディーラー豊田は、「木を使いたい」「木を届けたい」をつなげる木のディーラーを目指して2018年に設立されました。「遊ぶ」「仕切る」「つくる」「彩る」「集う」の観点から、豊田市産材を使った木質製品を豊田市各所で展開しています。また、豊田市産材の活用を推進するための木質化推進事業とその補助制度について説明していただきました。



## ◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

### ●流域圏担い手づくり事例集 (10年誌編集委員会)

- ・流域圏懇談会 10年の中で、山部会が果たした役割は大きい。会議の場だけではなく、その間にいろいろ活動しており、それが大きな広がりを作ってきていると思う。(近藤)
- ・これからは、流域圏懇談会での共有の他に、外への発信が課題と思う。特に、矢作川の恵みを享受している都市へどうやって発信していくかを考えていきたい。(近藤)
- ・まちの人を巻き込むことにより、持続可能な流域づくりにつながられるヒントがあると思う。(洲崎)

### ●森づくりガイドライン

- ・森づくり会議は、地域ごと、部落ごとなどの小さい単位で、山主の方々により組織されている。このような単位での営みを活発化させることが最も重要と考えている。(山本)
  - ▶ 豊田市には、地域の森づくり会議が111ある。豊田市は、13年間でこれら会議を地道につくってきた。森づくり会議と森林学校が連携し、自分たちの集落の周りの森林を自主的・自発的に管理していけるとよい。(蔵治)
- ・いろんな課題を抱え、模索している途中であるが、矢作川流域圏では全国に紹介できるような先進的な森林管理が進められている。(蔵治)
- ・山の共有について、山での生活や遊びは、ヨーロッパのコモンのような国民共有の権利であるべきと思う。(浅田)
  - ▶ 山の所有について、これからは集落で共同管理する形に変わっていく。山主や集落の人たちが、都市の住民と一緒に山を手入れしていくようなプランはある。(蔵治)
  - ▶ 1ターン者が地域の森づくりを担っていくとか、1ターン者と森林ボランティアの連携が進んでいくというような方向に向かわなければいけないと思う。(蔵治)
  - ▶ 森林の公益的価値・重要性について、市民が市民を啓蒙するような形で市民が理解していくことが第一と考える。森林所有者が抱えている問題を共有することが必要だろう。(山本)
- ・旭地区の木の駅プロジェクト。山主と森林ボランティアが協力して、木材の利用ルートを作り、山主の自発的な活動に森林ボランティアが関わっている。(山本)
  - ▶ 旭木の駅プロジェクト、あさひ薪研、錦二丁目まちづくり協議会が連携して、間伐材を活用した山と都市の連携の形を作っている。(洲崎)
- ・佐久島は、外の人が盛り上げて、それにつられて島の人と一緒にやっているという形。豊田市の森づくりの展望の中にも、内から外と外から内の両方のベクトルがあると思う。(浅田)
  - ▶ 20年かかった佐久島の経験が、山での可能性やヒントになるとよいと思う。(池田)

### ●豊田市における まちなかと川辺の木質化事例の紹介

- ・「とよた子育て総合支援センター あいあい」には子供を連れて行くことがある。木を使っているのでケガの心配もなく、時間を忘れて遊ぶことができる。(石原)
  - ▶ 木質化してから利用者が1.5倍くらいに増え、子供のケガも減ったという報告を受けている。(樋口)
- ・木質化推進事業の予算の総額はどれくらいか。また材料の調達はどうか。(荻野)
  - ▶ 予算は250万円。木質化にかかる経費の1/2を補助する形で進めている。材料の調達も対応できる仕組みを整えた。(樋口)
- ・木材の表面を不燃処理するなど、何か先進的な研究などは中部地方で取り組まれているか。(高橋)
  - ▶ 火災から人が安全に逃げられる時間を確保するための設計の工夫を行っている。山にある適材をいかにうまく使うかという設計の工夫が求められている。(樋口)
- ・豊田市の木材を有効に活用することで、豊田市の森がよくなる。矢作川流域の木材をうまく使うことで、矢作川流域全体がよくなると思う。(斎場)
- ・公共スペースへの木材の利用が拡充されてくる可能性を感じた。これにより、世代を越えた木材に対する意識が向上する。また、都市部と山間部をつなぐ何らかの役割を果たしてくれるという期待が持てる。(城田)
- ・実際の施工において、一番苦労するのは何か。(奥村)
  - ▶ 商業の店舗であると平屋でないことが多く、木材をどうやって搬入し、そこまで持っていくのかということで苦労することがある。(樋口)

## 今後のスケジュール (予定)

次回の山部会まとめの会・フィールドワークは、1月22日(金)・23日(土)岡崎市にて開催します。

### ◆お問合せ◆

#### 矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 佐藤、専門官 竹下  
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8129 技官 中村

\*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト (yahagigawa@ijinet.or.jp) までお送りください。

